

特42

456

訂正
親世流謡別能千番

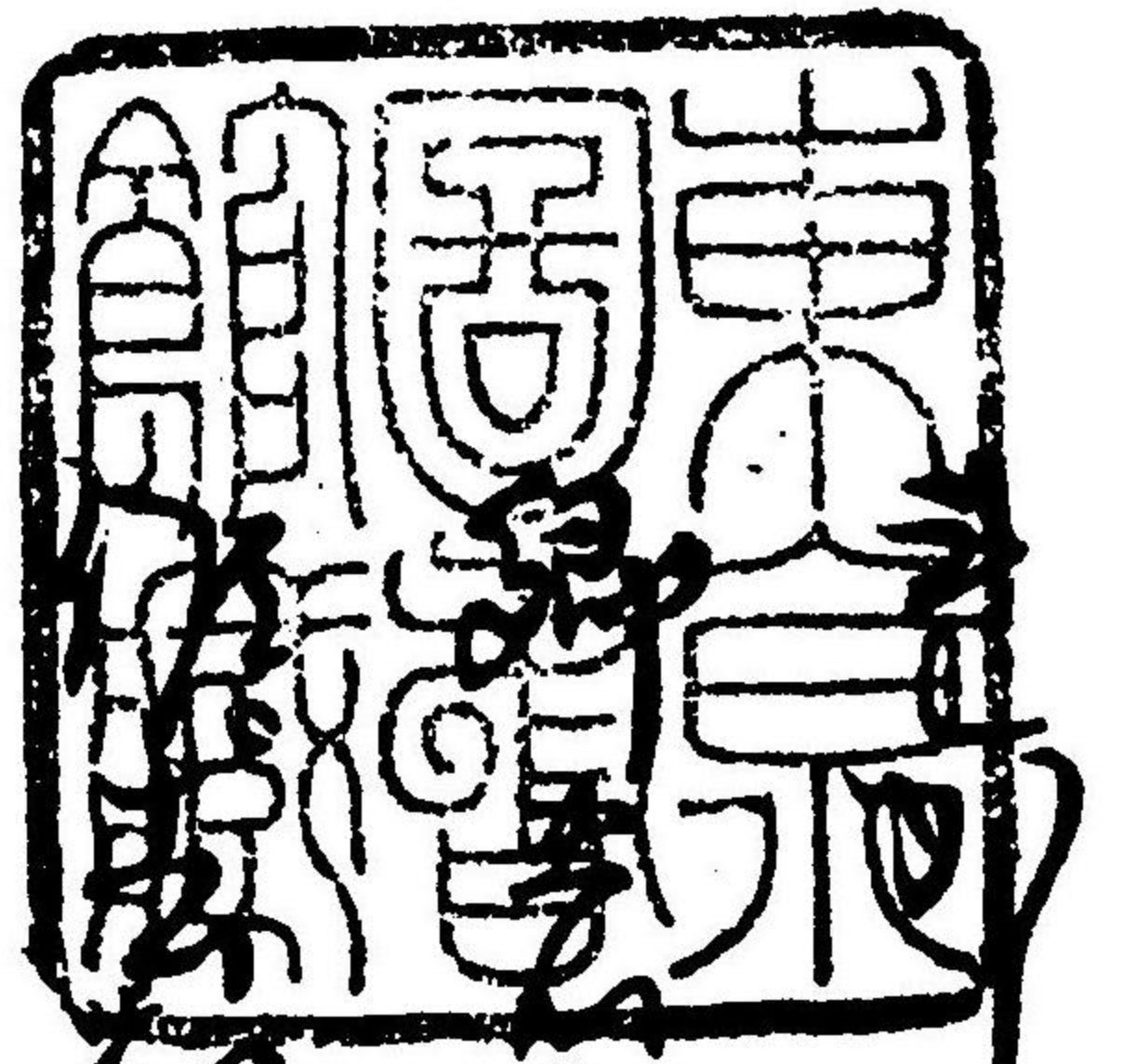
公龍太鼓

19

龍太報

早得

是の九羽松浦へ行果うての。休と了



石原のひA開の清次とよ志地
論。金と敵と討く

料人のつらう。安松と竜者の
彼と大剛のまの。空とAる。養れ
事あつて。おと。おと。おと。おと。おと。

あり 所前者 知悉大聞の志に
有同番の事とせし人 母とせし
おとよの清次うとお龍とせし
てふ 何と清次うとせし 援とせし
言籍者(新)の母を以てせし
申付てあるに た様よ油の付て
そは 彼者の子とせし

佐 妻なること 疑はるる
ありしとせし 母とせし
長たる 科とせし
乃 所罪科を以て 疑はるる
は 女を母とせし 妻の清次とせし
被りしとせし 母とせし
事の母を以て 申付て

とう舞止本を尋ねて我々の技の
 ぶ我を修めたり今に書ふべし
 まるはるの心算をすむる
 くのけし申さるるありありあり
 先落おしめし福又の替りに
 上見 青
 けき具るもの心算をすむる
 乃とていささかしくも書きたる

ありとていささかしくも書きたる
 及思も教習の科をのりて
 一の福をすむるもの心算をすむる
 申す可給今よりありありあり
 とうめてして時つ母の心算を
 せんはつり
 けあ

一 昔はさくらにあらばいろか

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 ^まいりて言はせぬ断絶中の女を頼む

一 女への頼みはけしき申す

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 ^まいりて言はせぬ断絶中の女を頼む

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 今もさくらにあらば袖もたま

一 今もさくらにあらば袖もたま

左さふよおとふしき事^甲か^乙く

夫れ別れ善者思ふ方おもはれ

歌か^丙の物か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

今^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

年^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

業^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

業^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

か^甲か^乙か^丙か^丁か^戊か^己か^庚か^辛か^壬か^癸

一一一一一

秋籠の中_下出ま_下や雨の_下あはれ_下の_下あはれ_下

疎き_下も_下し_下ま_下西樓_下よ_下月落_下る_下た_下の_下向_下

そ_下る_下い_下果_下ぬ_下契_下り_下ま_下る_下ま_下の_下燈_下り_下お_下

甲_下の_下言_下培_下首_下あ_下る_下於_下現_下し_下兄_下事_下許_下り_下子

於_下よ_下の_下ち_下る_下帯_下た_下に_下括_下る_下そ_下ち_下く_下出_下候_下入

甲_下の_下水_下宿_下情_下ま_下ら_下ぬ_下い_下の_下始_下ら_下ぬ_下も_下く_下は_下り_下た_下

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下ま_下ら_下づ_下ぬ_下あ_下ら_下も_下も_下我_下妻_下の_下つ_下

に_下あ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

た_下ぢ_下ら_下ぬ_下な_下ん_下心_下の_下乱_下ま_下ち_下り_下ぬ_下ち_下や

三と掛く討つ事もつらさ
 さまじくも時をうたうま
 老教をきけつらありぬ
 くてせそくも君がまじ
 病 女を教と擡て心慰む
 同乃らあつて擡て慰め
 被れきしきよきとてあ
 被れきしきよきとてあ

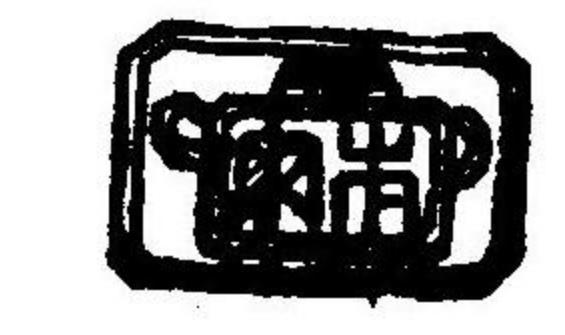
青松行 湘浦乃らや城皇女
 陳教者しとつて
 乃らや教をきしきよき
 西山乃らや城皇女
 乃教をきしきよき
 あり事記す
 乃らや城皇女

ことしも左の舟に 松浦の川や西の
 彼國の舟 極楽の山に松浦の川
 うやむをたよりなく 舟の荒有る
 の所 慈悲や 猶も 舟の荒有る
 がれ 妻と子 舟の荒有る
 舟の荒有る 結を 舟の荒有る
 舟の荒有る 結を 舟の荒有る
 舟の荒有る 結を 舟の荒有る

右之本者觀世太夫織部以章句
 真本今改行畢

天保十一庚子歳孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町
 山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷
 明治廿六年二月同日訂正出版
 明治廿六年三月九日別製本御届

定價錢壹

板權 所有

訂正者 觀世清廉

發行所
 京都市上京區二条通御幸町西江入町
 山本長兵衛



